

<導入>

みなさんは「時」と言ったらどのようなことわざが思うかぶでしょうか？

時に関してのことわざはどんな国でもあるようです。「時」というものについて、人の共通認識として持っているのではないかとも思います。「時を逃してはいけない」とかのところからこの「時」に遅れないように、それに間に合うように生きているような気がします。

長い間人間の歴史経験からのビックデータの中で、大体この「時」にはこのようなもの、また成果を出さないといけないような考えかたもできているような気がします。

確かに逃してはいけない「時」はあります。畑仕事をされる方ですと、種をまくときと、花が咲くときと、収穫の時など、一つの時を逃してしまうと、次のことに影響を及ぼしますね。ですので「時」とは逃してはいけないもの、のように認識している方も多くいらっしゃるのではないかとおもいます。

クリスチャンになって、よく使う言葉の中で「神様の時」という「時」があります。私は、自然など、自らコントロールできないもの、或いは予想もしかなかった出来事が、明らかになるとき、結果を見た時を私は「神様の時」がきたとっていて、よく使っていたなと思いました。

また、状況が整ってない時、うまくいかない時には、「まだ、その時ではない」とよく使っていました。

実は今日の聖書箇所でもそのような場面があり、今日はそのハガイ書を一緒にみていきたいと思います。

今日の聖書箇所をお読みいたします。

[ハガイ書 1:2-8]

2. 万軍の主はこう言われる。「この民は『時はまだ来ていない。主の宮を建てる時は』と言っている。」
3. すると預言者ハガイを通して、次のような主のことばがあった。
4. 「この宮が廃墟となっているのに、あなたがただけが板張りの家に住む時だろうか。」
5. 今、万軍の主はこう言われる。 「あなたがたの歩みをよく考えよ。
6. 多くの種を蒔いても収穫はわずか。 食べても満ち足りることがなく、  
飲んでも酔うことがなく、 衣を着ても温まることがない。  
金を稼ぐ者が稼いでも、 穴の開いた袋に入れるだけ。」

7. 万軍の主はこう言われる。 「あなたがたの歩みをよく考えよ。

8. 山に登り、木を運んで来て、宮を建てよ。 そうすれば、わたしはそれを喜び、栄光を現す。 ——主は言われる——

### < 1 >

ハガイ書はとても短く 2 章あります。預言者ハガイが神様から言葉を受けた年月も一緒に書かれています。また、他の預言者はだれだれの子、どの部族、などの著者への紹介が短くありますが、預言者ハガイは誰の子供であって、どの部族かも書かれてないです。

まさに風のような、いつ何日に神様から言われた言葉をただ伝えて、拡声器のようなひと？というイメージを個人的に受けます。

ハガイ書を理解するためにはそのすこし複雑な歴史背景を説明する必要があります。聖殿建築と関係があるので、旧約聖書のエズラ記と一緒に参考にすると、また理解が深まるかと思います。

ペルシャ王キュロスは神様にふるいたたされ、ユダヤ人には故郷に戻って神の聖殿を建築せよと命令をだします。それによって 70 年の捕虜の生活が終わり、エルサレムに戻ってきます。戻ってきたところはいろんなものが破壊されていることに気づきますね。やっとこれから、神様にちゃんと礼拝をしようと、偶像崇拜は 2 度としないと決心していたかもしれないです。そして、聖殿建築を早速始めます。神様の聖殿は彼らのアイデンティティともいえるでしょう。しかし、戻ってきて、すぐ聖殿を建てようというウキウキした気持ちはそこまで長く続きません。サマリア人も一緒に聖殿を建てたいとエズラ記 4:2 で願ってくるからです。

これから、偶像崇拜することをせず、み言葉通りに生きなきゃと。サマリア人が一緒に聖殿を建てようとしてきた時にもこれは混合主義的なことであるので、ここはやめようと。思ったかもしれないです。しかしこの妨げによって聖殿建築が中断されます。力もなく、経済的に豊かでもなかった彼らにこの出来事は反抗する力がなったように見えます。

このように中断されたまま 16 年すぎたあるときのことをハガイ書は語っています。エズラ記 4 章と 5 章の間の出来事です。

無力なユダヤ人たちに対して、この妨げは確かに強いものだったかもしれないです。ある意味人間の目には「これはどうしようもないよ～」とも言えるような出来事です。

### 2 節です『時はまだ来ていない。主の宮を建てる時は』

聖殿建築が中断されたことに対してユダヤ人たちは「その時に来ていないと」言い続けているのです。その時に来ていないから、このようなどうしようもないことが起きると、私たちにできることは何もないと。言っているのです。

しかし、神様の目には違ったようです。

4 「この宮が廃墟となっているのに、あなたがただけが板張りの家に住む時だろうか。」

「この宮」が聖殿のことですね。聖殿が廃墟となっているのにあなた方は自分が住む家は板張りの良い家に住んでいるのかと

この節からおろそかにしていた神様の聖殿と彼らの家の様子が対称的に現れます。

自分の家をきれいに建てていながら、聖殿については「主の宮を建てる時はまだ来ていない」と言っているのです。彼らはどのような「時」を待っているのでしょうか？

預言者エレミヤを通して成就したみ言葉によって彼らが、バビロン捕虜から帰還しました。彼らの帰還はただ神様の約束によるものであって、それが「時」であるとも示しているにも関わらずです。「聖殿建築」と、彼らの「捕囚からの帰還」は分離することができない、別々に考えることができないことです。

先まで、サマリア人と聖殿を建てない、偶像崇拜しないと信仰の決心をしていた様子はどこに？と思える場面です。

彼らは神様の恵みを受けたいと願いつつも、神様の民に戻りたいと願いつつも、自分のアイデンティティを探したいと思いつつも、その根本的なところは無視している、従おうとしていないともいえるでしょう。

もっと直接に適応すると、恵みを受けようと、聖書をよむが、祈りもするが、それに従順しようとしません。環境が整えられることをまって、それが整えられたら従順しよう。思っているのと似ていると思いました。

<2>

このようなことを悟らせるために神様は続けて預言者ハガイを通して語られます。

5. 今、万軍の主はこう言われる。

「あなたがたの歩みをよく考えよ。」

6. 多くの種を蒔いても収穫はわずか。食べても満ち足りることがなく、飲んでも酔うことがなく、衣を着ても温まることがない。金を稼ぐ者が稼いでも、穴の開いた袋に入れるだけ。」

「あなたがたの歩みをよく考えよ。」とは「どのように暮らしてきたか」の意味でもあり、過去の生活（信仰）態度と、それがもたらした現状のことです。歩んできた道と、その実についてよく考えなさい、振り返てみなさいとのこと。

彼らの生活がいかに神の祝福を失ったか指摘しています。その不忠実が困窮の原因として話しています。多く種をまいて苦労してもそれに比べての収穫はわずかしかない、満ち足りることがなく、酔うことがなく、温まることがないと、なすことに対して、どんな結果も得られてないことですね。最後の「稼ぐもの」に対してですが、「穴が開いた袋に」という言葉がありますね、つまり収入はかなりあるはずなのに、生活が少しも楽にならないことをいみします。

神様は具体的な出来事をもって、このような16年の歩みには実りがなかったということについて説明をしているのです。その動機の歩み方のままだと、どんな実りも結ばれることなく、どんな良い結果も得られることができないと。

聖殿建築を止めた理由が自分の家を建てることにポイントが合わせられていて、それをもっときれいに華麗につくるためにこれまでの時間がたったのです。表面的には「神様の時がきていない」といいながら、実はその心の奥には、自分のものを先に整えたい動機がありました。そしてそのゆがんだ動機のまま16年の時間が経ちました。

16年も必要だったかとおもう方もいらっしゃるかもしれませんが、このことから、人は自分の本当の動機と心によく気づけない存在ではあることがわかります。しかもよく、私たちはサマリア人たちと協力していない、ある意味では信仰を守ったと思ったのではないのでしょうか？

しかし、神様がこのように言葉を通して、また周りの環境を通して私たちに語ってくださいます。

クリスチャンとして信仰を持っている私たちも同じではないのでしょうか？実は私たちも心の中にある本当の動機によく気づけず、気づいたとしても、「間違い」だと認識できない時がありますね。そして、み言葉や、誰かに指摘されたとしても、それを正当化しようと本能的に知恵が働くことがあるのではないのでしょうか？罪がさらされたときに、それをきく相手にどれだけ、「私はその選択をするしかなかった」と納得させようとして、また自分にも「それが導きかもしれない」と言い聞かせているのではないのでしょうか？

今日のユダヤ人はこの状態のまま16年の時間を過ごしました。その彼らに対して「歩みをよく考えなさいと」神様はおっしゃるのです。

私たちももし同じようなことであれば、私たちの歩みをよく考える必要があると思います。

### < 3 >

神様はこのように指摘してから、彼らに今、この時点からやるべきことについて明記しています。

8. 山に登り、木を運んで来て、宮を建てよ。 そうすれば、わたしはそれを喜び、栄光を現す。 ——主は言われる——

と心だけのものではなく、行動での示しを要求しています。自ら行った間違いにたいして不愉快に思うとともに、それからの方向転換する行動が必要となります。

「わたしはそれを喜び、栄光を現す」のことばは、建てた聖殿で礼拝が行われることによって、「神様が喜ぶ」という意味を持ちながらも、神様の民の側の条件が整えられることによって、神が歴史の中に介入され、メシヤ時代を到来させる、という意味が考えられます。

動乱期にあった当時の世界の状況を考えると、後者の方がもっとふさわしいのではないかとともに思います。

聖殿建てることで神様の要求が神様の民の中で尊重され、受け入れられ。また、彼らも神様に受け入れられるのです。

このような命令があってから民たちはどのように動いたのでしょうか？

7か月目はユダヤ人に対して忙しい時期でもあります。仮庵の祭などいろんな大事な祭りがある時期でもあります。言葉があつたのが6か月目でしたので、その次の月がとても忙しい時期ですが、彼らは聖殿建築をはじめます。

エズラ記の5-6章に再建するときの過程とその内容が書かれてあります。

簡単に説明いたしますと、今回も同じく、み言葉通りに再建築しようとして、工事をはじめましたが、それも最初は順調ではなかったです。「この神殿を立て、その飾りつけを完成せよ、と誰がお前たちに命令したのか」とユーフラテス西方の総督が妨げに来ていました。ですが、彼らは今回、16年前のように工事を中断することはしないのです。

[エズラ記 5:5]

5. しかし、ユダヤ人の長老たちの上には彼らの神の目が注がれていたもので、このことがダレイオスに報告されて、さらにこのことについての返事の手紙が来るまで、彼らの工事を中止させることができなかった。

もう、言い訳を探すこともなく、神様から言われた通に行います。そしてこのような彼らに「神の目が注がれていたもので」ということばから、彼らの今回の聖殿建築を何も妨げることができないことが分かります。

そして、それだけではなく、

[エズラ記 6:7,8]

7. この神の宮の工事をそのままやらせておけ。ユダヤ人の総督とユダヤ人の長老たちに、この神の宮を元の場所に建てさせよ。

8. 私は、さらに、この神の宮を建てるために、あなたがたがこれらユダヤ人の長老たちにどうすべきか、命令を下す。王の収益としてのユーフラテス川西方の地の貢ぎ物の中から、その費用を間違いなくそれらの者たちに支払って、滞らぬようにせよ。

と工事がすすめられるだけではなく、その工事に必要な費用もすべて与えられるのです。

ありえないことがユダヤ人の間に起こったのです。長い時間これはまだ時が来てないと、理由付け、そのことから逃げ続けていたのですが、神様の言葉で言われた通りにすすめた時には思わぬすべてが満たされることが起きました。

今事実を並べて、神様がどのように働いたのかをみました。神様もこの時に「聖殿が建てられる」という事実をもって、ユダヤ人に、神様が歴史の主人であることをしめしています。もちろん、私たちにも同じことを示しているのです。

では、この出来事を通して、神様の最終の目的は聖殿だったのでしょうか？という質問をされる方もいらっしゃるかもしれませんが、そうではないです。

もし聖殿であるならば、16年も待つ必要がないですね、神様が期待したのは、自分の民が、過ちの道から離れてその中心に神様を置き、み言葉通りに生きることです。

じゃあ聖殿は？その過ちの道から歩みをただしたときに、その目に見える結果を通してもっと正しい歩み方は何かについて教えてください。

神さまの目的は「もの」ではなく、「人」にいます。

#### <まとめ>

最初の「神様の時」という言葉に戻ります。

私たちは「時」を通してある「結果」を見出そうとします。特に目に見える何かの結果があることをもちいて「これがその時だ」とよく考えています。

ですので、「時」を考えるといつも焦りがでます。「まだかな？まだかな？」「今ではないとだめだけど」周りと比較しながら、遅れてしまったらどうしようと、焦りがちです。また、今日の本文に出てくる民のように「まだだよ～」と自分の周りのものがまだ整えてないから、自分の家がまだ建てられてないから、私は準備できてないから、と言いつつしがちです。

私たちはこのように目に見える物をもって「いまだ」「今ではい」と判断します。

しかし、明らかに、神様の時は「目に見える結果」だけに注目していません。

もし「目に見える結果」だけに注目していたのであれば、ハガイ書に出るユダヤ人を16年

も待つ必要がなかったでしょう。

神さまの注目している所はいつも、私たちの心であって、その中心にあります。ただ、私たち人間は自分の心の中心に気づけない者なので、ある程度の「目に見える結果」をもって私たちに説明し、説得し、励ましているのです。

「神様の時」とは目に見える結果ではなく、「自分の民が神様に立ち返る時」ともいえるでしょう。み言葉に指摘されたときに言い訳もなく、ただ「アーメン」と答えて素直に従っていくこと。それが神様の時ではないでしょうか？

詩篇の言葉をお読みいたします。

[詩篇 95:7,8]

まことに 主は私たちの神。私たちは その牧場の民 その御手の羊。  
今日 もし御声を聞くなら あなたがたの心を頑なにしてはならない。

その神様の言葉があった時、聖書や、祈りを通して、神様のみ旨が示されたときに、それに素直に従い、素直に自分の心の中心をゆだね、従順していきましょう。

今日は献堂記念 37 周年ですね。神様は私たち一人ひとり聖殿だと呼んでくださっています。私たちの心の中心に神様を置き、そのみ言葉に従って、神様が喜ばれる聖殿をささげていきましょう。私たちが自分たちの歩みを考え、主に立ち返るその時こそが喜ばしい「神様の時」であると信じます。

お祈りいたします。

愛する天のお父様。

今日も神様の前で礼拝ささげられる恵みに感謝いたします。

あなたはご自分の御心を聖書を通して、イエスキリストを通して、聖霊様を通して私たちにを見せてくださっています。その御心通りに、あなたが願う通りに私たちが歩んでいきますように、導いてください。

私たちは愚かで、自分の罪にも気づけない時があります。しかし、あなたのみ言葉に立てその信仰の道を歩むことを決心いたします。どうぞ日々を通して私たちに語ってください。今週も、あなたと歩む一週間となりますように祈ります。

イエスキリストの名前によってお祈りいたします。